

MACF礼拝説教要旨

2021年6月6日

「風は思いのままに吹く」

ヨハネによる福音書3章

3:1 さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。

3:2 ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」

3:3 イエスは答えて言われた。「はっきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

3:4 ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができますよう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか。」

3:5 イエスはお答えになった。「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」

3:6 肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。

3:7 『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。

3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」

3:9 するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言った。

3:10 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分らないのか。」

3:11 はっきり言っておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証ししているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。

3:12 わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。

3:13 天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもない。

3:14 そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。

3:15 それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。

+++++

先週の金曜日にワークショップがあり、その時に取り上げたのがこの箇所でした。いろいろ話し合ったり、感じ取ったりする中で、私自身、今朝の礼拝で話したい思いが強くなり、ローマの信徒への手紙からの説教を来週に延ばして今朝は「ニコデモとイエス様との対話」を味わってみたいと思います。

1) ニコデモ：議員のひとり

ニコデモは真面目な議員であり、社会的にも大いに尊敬されていた人だったと思

います。でも、この人がどうしてもイエス様のところに来て確認したいことがありました。

自分と神との関係は大丈夫だということを保証してもらいたかったのです。

2) イエス様の反応と応えについて
イエス様は全体的に、ニコデモの質問に対しては否定的な言葉で説明しています。

3:3 イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

3:5 イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」

3:6 肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。

ニコデモはこれらの言葉に困惑し、考え込んだと思います。もしかしたら腹を立てたかもしれません。

というのも、どんな人間的な要素をもってしても「神との関係を良好にし、神の国に到達することは難しい」というのが返答だったからです。

ニコデモはおそらく、「あなただったら大丈夫ですよ、真面目に議員を勤めているし、旧約にも明るいいし」と言われることを期待していたかもしれません。でも、それを見事に覆され「肉から生まれたものは肉なのだ」と断言されてしまうのです。

3) 水と霊から生まれる

イエス様は不思議な言い方をなさいました。

3:5 イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」

水は「清め」を表現するものでしょうし「霊」は神ご自身の介入を意図しています。

そして「霊からうまれたものは霊である」と語りました。

4) 「風は思いのままに吹く」

つまり、ゆっくりこの対話を考えていくと思想の流れを感じます。

肉的な要素、肉の誇り、自慢は「その人を神の国に入れてくれるものではない。それらはなんの役にもたたない」ということが出発点。

キリストと出会い、み言葉に触れ「今の心と今の生活姿勢のままではダメだなと気づき、心の清めを求める心が起こされる瞬間がある。それはまさに「水によって新たにうまれる瞬間」となる。

同時に、それは心に深い救いを求める心に通じており、神はまるで放蕩息子を迎える父親のようにその魂を清め、その罪を赦し、神の子供としてくださるためにさまざまな気づきを与え、私たちを十字架へと向かわせます。

これらのすべてが「風」が頬にも、心にも吹きかけるように自然にその方向へと私たちを進ませ、私たちに神との和解の必要性や自らの清めの必要性を風が促してくださる。

そのきっかけは、いつなのか、どこなのか、明確にはわからない。

しかし、間違いなく誰に対してもその風は吹き付けているのです。

なにがあっても絶望しなくて良い理由がここにあります。

聖霊の風がどこからでも、いつでも、あなたに吹き込んできてあなたを清め、あなたを癒し、あなたを励ますことをしてくださるからです。

しかも、その風のおかげで被造物の美しさに気づけるようになり、心の中の正邪を今までより敏感に感じられるようになってくるのです。

その風は思いのままに、いつでも、どこからでも吹き込んでくるので人間的な努力や権力、社会的立場による神との関係の深まりは絶望的ではありますが、聖霊の風による神様との近さ、聖霊の風によるいのちのありがたさ、美しさについては止まるところを知らないほど深くなっていきます。

だから、その風に自分自身を任せて、進めばよいのです。

風にゆれるススキのように、聖霊の風の流れの中にいかようにでも取り扱っていただければ良いのです。

風は吹いているのです。神の愛のそよ風は今もあなたの心に吹き付けています。

静かにそれを感じてください。

++++

MACF礼拝映像は

<https://youtu.be/LDNyDFzhG48>